

設立(1879 年～)

ド・ロ神父が外海に赴任

当時の救助院周辺

救助院の制服を着た女性たち

38 歳のド・ロ神父

1879 年、フランス人宣教師、マルク・マリー・ド・ロが、プチジャン神父によって、外海の主任司祭に任命されました。1883 年、農民たちの貧しい暮らしを懸念したド・ロは、私財を用いて、出津救助院を設立しました。救助院の目的は、女性の自立する力をつけさせるというものでした。救助院では、パスタ、日本の素麺、織物の製造などが行われました。また、女性たちはキリスト教や読み書き、算数、農業、漁業、製粉、またパン作りなどについて学びました。救助院の規模はだんだんと拡大し、1880 年代には、漁網の製作所や、託児所、診察所なども含むようになりました。救助院の他にも、ド・ロ神父は教会や、私立学校、農場などの多くの施設を近隣の地域に立ち上げました。1914 年の彼の死後、次第に発展して、女性のための修道院へと姿を変えました。救助院のおかげで、40 年間ほどの間に、多くの女性が自立をすることができ、ド・ロ神父の目的は達成されました。